「白頭鷲の英名講座」　第 18 回　番外編その 1

## 米空軍に「猛禽」登場

ロイター通信によれば、米空軍は次期主力戦闘機として「猛禽」を採用することに決定したとのこと。

すでにお馴染みの F-15 イーグルの後継機種として、F-22 の生産型 1 号機が、マリエッタのロッキード・マーチン社工場で初公開された。F-22 はステルス機で双発、最高速度はマッハ 2 以上。愛称はなんと「ラプター（Raptor＝猛禽）」。

米空軍は、航空機と同様に空を飛ぶものとしての鳥、特に猛禽類への憧れと敬愛の念を持つためか、愛称に盛んに猛禽が使われる。

F-15 が、イーグル（Eagle＝ワシ）
F-16 が、ファルコン（Falcon＝ハヤブサ）
AWACS（早期警戒機）が、ホークアイ（Hawk Eye＝タカの目）
VTOL（垂直離着陸機）が、ハリヤー（Harrier＝チュウヒ）

などがあり、ついで今回の F-22 ラプター（猛禽）が米空軍に現れたのだ。

ちなみに、この「猛禽」は 1 機 90 億円もするが、「あらゆる戦闘機をしのぐ空中戦性能と、正確な対地攻撃性能を持つ、21 世紀の戦術戦闘機」とのこと。さすが「猛禽」ではある。

大宮のハクトウワシ

『しらこばと』No. 158、1997年6月号より